

夏月

日

葉

新聞

第3種郵便物認可

全国で採集、230種6700点

子ヨウ美の妙



畑明夫さん

まちなかを舞う子ヨウが減っている。その美しさ、多様さにもっとも触れてほしい——。大阪府豊中市の畑明夫さん(79)がそんな願いを込め、国内各地で採集した約230種、6700点の標本を伊丹市昆虫館に寄贈した。同館の企画展「子ヨウのふしぎ」で7月6日まで公開中だ。

企画展で公開中



小学6年生の時、自作した子ヨウの標本が羨望された。その喜びが畑さんの原点という。損保社を定年退職すると、採集活動を本格化させた。申網を手につく離島へ、山へ。子ヨウを探し、何度も旅に出た。北海道から沖縄まで、標本には捕獲場所を、日付とともに丁寧に記す。昆虫館の学芸員、角正義雪さん(38)は「日本全国の子ヨウを網羅している。保存状態

もよく、資料として価値が高い」と言う。「同じ種類の子ヨウでも個体が異なれば、色合いや大きさが微妙に異なってくる」と畑さん。標本をじっくり眺め、それぞれの違いに気づいてほしいという。例えば、温帯化で分布圏を北に広げていると言われるナガサキアゲハ。関西で捕まえられたものは羽が黒く、奄美大島や沖縄など南方で捕まえたものは羽が白いという特徴がある。

2歳の息子と見学に訪れた女性(29)は「二つ二つの標本がどれも一緒ではなく人間みたい」と感心していた。

伊丹市昆虫館(072・785・35882)は、同市昆陽池3丁目の昆陽池公園内。火曜休み。大人400円、中高生200円、3歳以下小学生100円。

(石塚大樹)

子ヨウの標本に見入る来館者
伊丹市昆陽池3丁目の市昆虫館

大阪の畑さん 伊丹市昆虫館に寄贈